

音楽のよろこび

2024年 7月22日 No.58
発行文責 担当事務局
田中正恭 田村乃里子

とても暑く、連日熱中症への警戒が呼び掛けられる、今までの「梅雨」とは違う日々が続きました。皆さまお元気でしょうか。

6月は村中宏さんのファゴット、ピアノ矢野百華さんの納得と感動の回でした。ていねいで解りやすい「ファゴット」についてのお話、実際に村中さんの楽器に触れさせていただく、今までになかったような講師さんと受講生さんの一体感ある講義でもありました。



アンケートからは皆様の「ブラボー！！」の声と、値打ちのある講義だったと絶賛の声がたくさんありました。また「楽しい講義でした」と書かれた方が多かったです。ファゴットのファンになられた方も多かったのではないのでしょうか。

短時間の講義、演奏にも関わらず、ファゴットを通じた村中さんと矢野さんの「音楽」へのアプローチを私達一人一人がしっかり受けとめられた、豊かな時間だったと思います。リードを吹くという体験コーナーは、体験された3名の方がお上手なのに驚きました。



村中さん、矢野さん、本当にありがとうございました。お二人にもう一度拍手です！！



～今日はサマーコンサート～

毎回人気のコンサート。出席率もアップします。今回は、ヴァイオリン・ヴィオラ・チェロの3つの弦楽器にピアノを加えた編成。ピアノ四重奏。

昨年は弦楽五重奏で、一つの楽器から、二つ、三つと楽器が増え、音の広がりを感じたコンサートでした。

今回は、この4つの楽器が絡まり、どんなコンサートになるのでしょうか。演奏は、

ピアノ：塩見亮さん ヴァイオリン：松谷由美さん
ヴィオラ：金本洋子さん チェロ：一樂 恒さん

さあ、はじまります♪♪ ワクワク！！♪



～アンケートから～

いつもアンケートにご協力
ありがとうございます。
アンケートは一部抜粋したのもの
もあります。ご了承ください。

初めてファゴットの生演奏を聴きました。思っていたより柔らかい音で、優しい音色でファゴットのファンになりました。ピアノも素晴らしい。ありがとうございました。

楽しい講義でした。ファゴットの楽しさを知ることができました。ファゴット愛を感じます。

バロック時代のサロンで聴いているような優雅な気持ちになりました。10本の指を使用していること、息づかいも大変なんだろうと思いました。リードを2週間かけて作っている！今回3本作ってこられて、体験コーナー有りで身近に感じられました。選曲も良くて楽しく聴かせていただきました。熱演をありがとうございました。

ファゴットはずっと憧れの楽器でした。木の持つ柔らかな音、やさしく温かい音にやはり心を奪われました。身体を優しい音に包まれて幸せな時間でした。でも演奏はとても難しそうなので、憧れるだけで私には充分でした。どの曲も素晴らしかったです。

とても分かりやすく解説してくださり、ファゴットに親しめました。なんて細かな動きがあり驚きました。楽しい楽しい講義でした。

ファゴットの講座は2回目でした。資料を添付して下さり、説明が丁寧で、とても分かりやすく、ファゴットを身近に感じられました。（私事ですが、フルートを少し習っているのですが、特に木管楽器には親しみがあります）木管ならではの丸味のあるまろやかな音色、ファゴットの素晴らしさを堪能しました。

とても分かりやすい説明でファゴットの事がよく理解できました。演奏も素晴らしくて、楽しかったです。

チェロの音域という事で落ち着く音でした。でも管楽器なので空気をふくんだ丸い音に聞こえました。たしかにバッハの無伴奏プレリュードでは村中さんの息づかいが聞こえて、チェロによる印象とはまた違い興味深い印象でした。バロックの音楽は心が落ち着きます。（私の好みですが、）

モーツアルトのファゴット協奏曲は、音の高低による音色の違いを巧みに使ってテーマが繰り返されて華やかに気持ちが高揚する。さすがモーツアルトだと感動しました。

楽器を各々理解して作曲すると演奏者が納得するだけでなく、曲を聴く者も楽器の特性を生かした演奏に心が躍るのかなと思いました。作曲する人も大変です。ピアノ演奏も大変迫力ありました。管楽器は体が勝負の様です。リード作りも職人技です。楽器についての講義もよく分かりました。ありがとうございます。（外村律子さま）

ファゴットの楽器の仕組みや歴史、リードと楽しく説明してもらい、とても楽しかったです。エルガのロマンスは情趣がありとても良かったです。ファゴットの音色は心地よいです。

詳しく丁寧な解説、とてもわかりやすくよかったです。楽器体験までさせていただいて貴重な機会となりました。ありがとうございました。（星野正幸さま）

どこか大正ロマンの香りのする音色で引き込まれました。初めて接した音色です。この思いを演者の方に是非お伝えたいです。講義もわかりやすく、興味深く聴けて心から参加できたことに感謝しました。よい講義でした。

分かりやすく解説してくださったので、よくわかりました。楽しかったです。ありがとうございました。

30個のキーを10本の指を駆使して演奏することを、解説していただいた後は、指の動きに注目して演奏を楽しむことができました。息づかいが難しいですね。村中さんの表情と体全体での楽しそうな演奏に引き込まれました。モーツアルトファゴット協奏曲、低中高音域の音色の違いがメリハリがあって楽しい演奏でした。エルガーのロマンスは、とても甘い音色でとろけそうでした。

今日は、ファゴットとピアノのステキな音楽にたっぷり包まれた時間となりました。村中さんのお話がとても聞きやすく、ファゴットについて細かく知れたように思います。コンサートの際には、ぜひファゴットの音を楽しみたいです。

私の日常では見たこともなく、知らなかった楽器にスポットを当てていただいた授業は非常に有意義な時間となりました。演奏者お二人が音楽を愛して楽器を愛しておられるのがとても感じられました。京響のコンサートにぜひとも伺いたいと思いました。

事務局に感謝！！今日は最後部席、それでも前から5列目。かぶりつきに近い。演奏される曲が体の隅々までしみ込むような感で迫力もあり至福の時を楽しませていただいている。

ファゴットという楽器の第1印象は長くキラビヤカな装飾をしたあずき色で、スタイルの好い楽器だなあと思いましたが、演奏者の村中さんのわかりやすい説明を受け、音を色々と出すためと、どのように演奏者が奏でられているか、上手に工夫されているのに納得。キラキラ飾りではなく、遠くに空けた穴を制御していることがわかりました。優しい音色に心地よくなりました。この教室で演奏会では聞けない楽器のいろは等も説明を受け、探求心と理解力を満足させてくれるので嬉しいです。

孫娘が高校の時ブラスバンド部でファゴットを吹いていました。ソロは聴いたことがなかったので、今日はたっぷり音を楽しめました。孫との会話も増えそうです。ありがとうございました。ドニゼッティの思い出、最高に楽しかったです。

ファゴットは格好いい楽器だと思いました。演奏部も高音と低音が中間分に設置され、長い楽器なのに演奏しやすく工夫されている。モーツァルトのファゴット協奏曲は軽快なリズムと重厚な部分とがうまく合わさって楽しい演奏でした。受講者の演奏練習にはびっくり。村中さんのサービス精神に感動。ピアノの矢野さんの演奏は村中さんファゴットにとってもいいアンサンブルでした。最高に楽しかった。ブラボー！！(T.Kさん)

楽器名だけは知っていましたが、ファゴットを直接見るのは初めてで、もちろんファゴットの音色を単独で聴くのも初めてでした。大変貴重な体験ができて、ありがとうございました。低音域と高音域で、リードの吹き方(音色)が異なるなど、大変勉強になりました。リードについては、以前クラリネットでも説明がありましたが、リードの音が木管で反響してそれぞれの楽器の持つ特徴的な音になる不思議には、感心させられます。最後のエルガーのロマンス良い曲ですね。(荒井亨さま)

ファゴット単独の演奏をあまり聴く機会がありませんでしたが、ゆったりとしてそれでいて跳ねるような深みのある音色を楽しめました。2本の木管がひとつにまとめてあるというのは驚きました。ただ大変息づきが難しく、しんどい楽器だなと思いました。さすがにプロフェッショナルによる演奏は素敵でした。ピアノの伴奏も大変素晴らしい内容でした。ありがとうございました。

ファゴットを間近に見て「カッコイイ！！」と思いました。演奏されている姿もかっこよかったです。低音の響きが心地よく素敵でした。ファゴットの歴史や楽器の説明もわかりやすくてよくわかりました。

ファゴットという楽器を間近で演奏いただき、聴かせていただき充実した時間でした。温かくちょっとひょうきんな音色のイメージでしたが、こうしてソナタや協奏曲などのまとまった曲を聴かせていただくと、存在感のある表現の幅の広い楽器ですね。22日にはショスタコーヴィッチでファゴットが大活躍されている定演を聴かせていただきましたが、こうして独奏曲をたっぷり聴かせていただけるのも、この教室の魅力です。

きちんとお話を組み立ててその流れにそった曲目を選んで、解説つきで演奏いただき、本当に値打ちの高い講座でした。ありがとうございました。いつも思いますが、プロの方の超絶技巧凄いです！



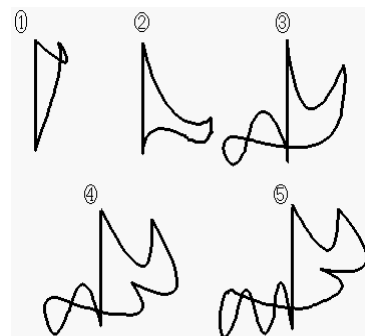
次回は8月26日(月)

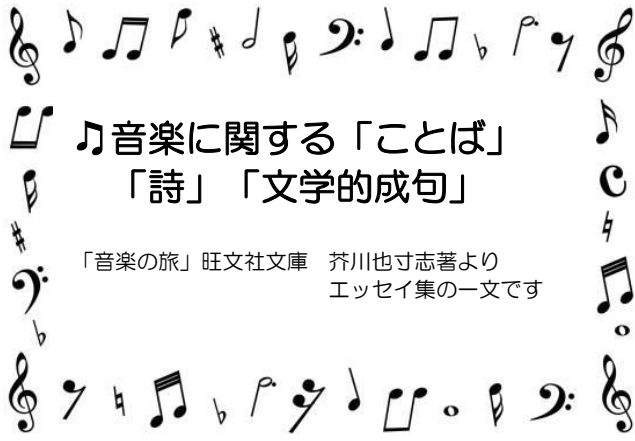
会場：鴨沂会館

13:00開場 13:30~15:30

「特別講座 指揮者 阪哲朗さん」

阪哲朗先生と、弦楽四重奏で……
市立芸大音楽部指揮専攻教授でいらっしやいます。
私たちの要望を金本さんが、阪先生にお願いし実現した貴重な講座。こ
期待ください！！





「音楽の旅」旺文社文庫 芥川也寸志著より
エッセイ集の一文です

《各号スペースがあれば、田中の独断でいいな~と思った「ことば」や「詩」・文学的成句などを書いていきます。》

…ショスタコーヴィッチの死より…

ショスタコーヴィッチについて語る時、国家権力による彼と彼のいくつかの作品に対する痛烈極まりない批判や…様々な論評がしらす行われることになる。まさに、このような種類の矛盾を生き抜いた大作曲家はほとんどいないのだから、…当然な事かもしれないが、彼自身にとっては、全く迷惑千万な話ではないかと思われる。

11番シンフォニーを書いていた時、私は何度かショスタコーヴィッチに会った。—中略—天才の苦しみは天才にしかわかるまい。それでも私は彼の作曲活動がどんなに苦しかっただろうと思う。あの善良そのものまなざしや、純粋な音の世界に没入していく時の姿をおもい起すにつれ、彼が生きた時代と、彼を傷つけ続けた時代そのものを切り拓いていかねばならなかったその苦しみは、どんなにかつらかったことだろうと思う。

1975.8月

実際ショスタコーヴィッチと何度も会って話をした芥川也寸志の「証言」として、とても貴重な一文と思います。有名な5番「運命」についても名曲であることはゆるぎないとしても、その意味を問い返すことが、一般的になりつつあること、真実はどこに、という問いと音楽の有様は……田中記